



市長 牧之原市議会  
むらたひろひで  
**村田博英**

つながりを大切にし、  
多くの皆様と対話できる  
環境づくりへ



市長 牧之原市  
すぎもと  
**杉本基久雄**

市制施行20年  
交流の拡大や賑わいの創出  
を進める

明けましておめでとうございます。市民の皆様には、輝かしい新春を健やかに迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

昨年は、元日に能登半島地震が発生し、復興もままならない9月にも記録的な豪雨が襲いました。市内でも8月末に記録的な雨量が観測され、初めて一部地域で「警戒レベル5緊急安全確保」を発表いたしました。幸いにも人命や住家への被害はほとんどありませんでしたが、災害が頻発化する昨今、市民の皆様の生命財産を守るため、防災意識の啓発や必要となる整備を推進してまいります。さて、令和5年度にスタートした第3次総合計画も3年目となり、5つの「重点戦略・プロジェクト」を中心に、賑わいの創出や住む魅力の向上に

ついて重点的に取り組み、持続性のあ  
るまちづくりを実現してまいります。

東名相良牧之原IC北側地区の開発では住宅街区が完成し、住宅建築などが進んでいます。また、それ以外の商業・産業街区も秋ごろに造成工事が完了する予定です。今後も関係者などと連携しながら、新たな拠点の創出に取り組んでまいります。また、市内初の道の駅「そらっと牧之原」については、7月のオープンに向け建設工事を進めております。魅力ある施設となるよう、お茶やレモンを中心とした商品の開発も進んでおり、地産地消に向けた取り組みとしても大いに期待しております。現在放送中のNHK大河ドラマには、相良藩主であった田沼意次侯が主要人物として登場しています。こ

れは、市にとって千載一遇のチャンスであり、これに併せて市史料館にて大河ドラマ展を開催するほか、ドラマを活用したさまざまな事業を展開し、皆様に楽しんでいただけるよう取り組んでまいります。

最後に、本市は10月11日に市制施行20年を迎えます。市の20年の歩みを振り返るとともに、交流の拡大や賑わいの創出、郷土愛の更なる醸成につながる記念事業にも取り組んでまいります。今年も市民の皆様と連携し、魅力あるまちづくりに全力で取り組んでまいりますのでご理解とご協力をお願い申し上げます。結びに、皆様のご健勝とご多幸を心から祈念いたしました。新年のご挨拶とさせていただきます。

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、新春を健やかに迎えのことと、お喜び申し上げます。

昨年を振り返れば、元日に能登半島地震が発生し、報道で見る被災地の様子に、これから始まる新たな1年を不安に感じたことを昨日のように思い出します。また、全国的に線状降水帯による大雨被害が多発し、本市も例外ではなく被害がありました。大きな被害がなかったのは、市はもとより、市民の皆様が日頃から防災意識を高く持っていたこと、この賜物ではないかと思いません。

市議会においては、総務建設委員会にて「移住・定住人口増加に向け

た職住近接施策について」、文教厚生委員会にて「子どもの未来のための環境整備について」という調査事項を定めて、日々調査研究を行っています。本市が「消滅可能性自治体」に指定されるという残念なニュースもありましたが、市のさらなる発展に向け、市長に対し実効性のある提言を行ってまいります。

毎年実施しております議会報告会については、若い世代のご意見も伺うべく、昨年は高校生版の議会報告会も実施し、4会場で実施したものと合わせて大変多くのご意見をいただくことができました。「市民に開かれた議会」を目指す市議会としては、今後も市民の皆様とのつながりを大切に、多くの皆様と対話できる

環境をつくっていききたいと考えております。

我々現議員の任期は10月29日までとなるため、今年が改選の年となります。議員一同、任期満了となる日まで、市民の皆様の負託に応えるべく精一杯活動してまいります。さて、今年、市制施行20周年となる記念の年となります。これまでの市の発展に御尽力された皆様に感謝するとともに、今後のますますの発展に向けて、市民一丸となって取り組んでいきたいと思います。結びに、今年が市民の皆様にとりましても、市にとりましても、明るく素晴らしい1年でありますよう祈願いたしました。新年のご挨拶いたします。

# 謹賀新年

2025年 年頭のごあいさつ

静波海岸の初日の出(以前のもの)